

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

タイトル 健康診断結果への対応(12) 赤血球数・血色素量・ヘマトクリット値 [2018年5月31日]

今回は貧血関連の3つの検査値の話です。血中で酸素を運ぶのが赤血球(RBC)、その中の主成分が血色素=ヘモグロビン(Hb)、血液をしばらく静置すると下に沈む赤い固形成分の、全血液に対する割合がヘマトクリット値(Ht)です。さらに $MCV = Ht / RBC (\times 100万) \times 10$ 、 $MCH = Hb / RBC (\times 100万) \times 10$ 、 $MCHC = Hb / Ht \times 100$ という数値があり、これらは健診結果表にも載っており貧血の原因検索に有用ですが、一般の方は知らなくても良いでしょう。基準値はRBCが♂400-539(♀360-439)万/ μ L、Hbが♂13.1-16.6(♀12.1-14.6)g/dL、Htが♂38.5-48.9(♀35.5-43.9)%です。

これらが基準値以下の場合には貧血と診断されます。貧血の原因の多くは、ヘモグロビンの重要成分である鉄の欠乏で、生理のある女性が十分鉄を摂取しない場合が多いです。ただし婦人科、消化器、尿路、骨髄の疾患のこともあるので、一度は医療機関を受診しましょう。

ここで注意が必要なのは、一般に言う「貧血を起こした」という貧血と、医療で言う貧血は別物だということです。前者は脳に十分血液が循環しないために起こり、子供や若い女性の立ちくらみなどが良い例です。一方で今回話題の貧血は、別の言い方をすれば血液の濃さが薄い、すなわち血液が水っぽいことです。

RBC、Hb、Htが基準値より高い場合もあります。多くは血液が濃すぎるため、健診のため朝から飲食を控え、その上に汗をかいた場合などで起こります。しかし希には血液疾患の場合もあるので、必ず再検査を受けましょう。